

『ぱぱな農園との農福連携の取り組み』

2024/7/31

工賃向上計画セミナー I 資料



駒ヶ根市障害者就労支援センター伊南桜木園

1 はじめに

「農福連携」とは、障害者などが農業で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会に参加する機会をつくる取り組みをいう。

「農福連携」の目的は、障害者などに就労の場や生きがいを提供することに加えて、高齢化の進む農業分野において新たな担い手を確保すること。

駒ヶ根市障害者就労支援センター伊南桜木園は平成30年に駒ヶ根市中沢地区に移転。地域性も影響して年々個人農家などから農福連携のニーズは高まる一方、利用者や職員の高齢化が著しく、担い手側にも課題が多くなってきている。しかし、野沢菜の収穫作業などの農福連携関連の作業は利用者の工賃アップに直結して就労する喜びや働きがいにつながっている。

2 事業所の基本情報

(1)所在地・連絡先

長野県駒ヶ根市中沢2512
TEL/0265-83-7531 FAX/0265-96-7150
E-mail sakuragi@cek.ne.jp

(2)沿革

平成元年6月	駒ヶ根市福祉共同作業所伊南桜木園開所
平成20年4月	指定障害福祉サービス就労継続支援B型事業所認定 就労継続支援B型サービス提供開始
	駒ヶ根市障害者就労支援センター伊南桜木園に名称変更
平成30年8月	駒ヶ根市中沢へ移転
令和元年11月	開所30周年記念式典・祝賀会開催・記念誌発行

(3)提供する障害福祉サービス

就労継続支援B型

(4)定員

25名

(5)在籍者数

35名(10から80代まで) (2024/7/1)

(6)平均利用者数

25名/日(R5年度)

(7)作業の種類

①受託作業

(有)有賀製作所
(株)ケイティケイ駒ヶ根工場
(有)アド・プランニング
(有)シンセイ
(株)日精技研
(株)トーハツマリーン
(株)アグリコ

②自主生産

- ・EMIぼかしの製造、販売
- ・さしみこんにゃくの製造、販売
- ・野菜の栽培、販売
- ・加工品の販売(ジュース,切り干し大根)

③施設外就労

(有)ぱばな農園
(株)中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋
りんごのきのした農園
柚木農園
野溝農園
戸澤農園
村上農園
岩見農園
天の中川千竜農園
農事組合法人なかざわ
竜東あんぼ柿研究会
(株)七久保栗の杜
(株)ケイティケイ駒ヶ根工場
(有)伊南資源

3 ぱばな農園野沢菜作業の事例

(1)経緯

長野県セルフセンター協議会地域連携促進コーディネーターの紹介により、令和2年度から参加している。

(2)参加事業所(R5年度)

- ①案山子
- ②アンサンブル駒ヶ根
- ③おぶしょんα
- ④西駒郷宮田支援事業部わーく宮田
- ⑤さくらの家
- ⑥伊那ゆいまーる
- ⑦チャレンジセンター笑顔の時間
- ⑧輪っこはうす・コスモスの家
- ⑨伊南桜木園

(3)作業の申し込み・オリエンテーション

野沢菜の収穫作業参加申し込み書により申し込みを行い、作業期間中のスケジュールを作成して長野県セルフセンター協議会農業就労チャレンジコーディネーターが調整。作業開始日に現地で作業説明会が行われ、参加事業所職員・利用者が参加。

(4)作業工賃

R2年度 550円/h
R3年度 550円/h
R4年度 550円/h
R5年度 600円/h

(5)作業手順・内容

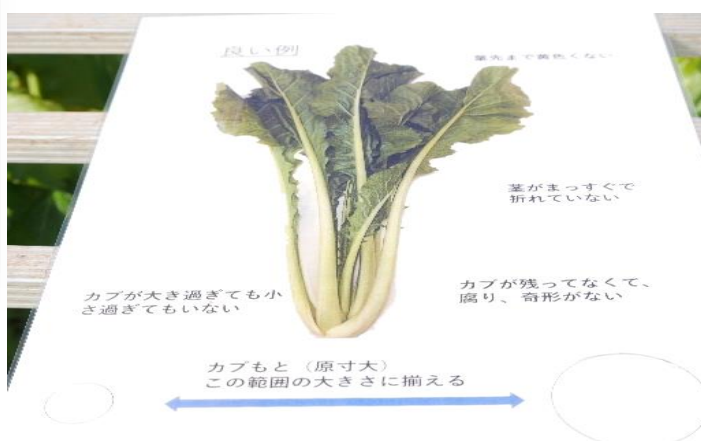
- ①駐車してから準備をする(長靴・手袋など)
- ②野沢菜の圃場へ移動する。
- ③テーブル・包丁を用意する。
- ④野沢菜を抜く。



- ⑤その野沢菜をテーブルに並べる。
- ⑥葉を切り落とす。



- ⑦黄色い葉や傷んだ葉を除く。



⑧野沢菜をそろえて結束する。

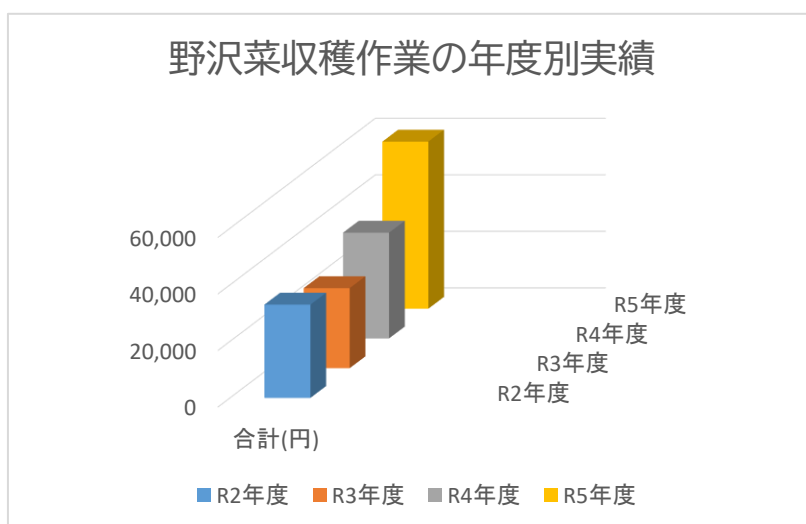


⑨運搬車両に運ぶ。



(6)実績

	合計(円)	延べ人数	比率
R2年度	33,000	30	1.00
R3年度	28,325	23	0.86
R4年度	37,400	28	1.13
R5年度	59,100	46	1.79
	157,825	127	



(7)感想

①利用者

- ・初めて参加して楽しかった。
- ・やりがいがあって、楽しい。
- ・ぱばな農園のスタッフさんに会うのが楽しみ。
- ・土を付けないように抜くのが難しい。
- ・他の事業所の人達に会えて嬉しい。
- ・新聞社の取材があって緊張した。
- ・寒い時期だが、頑張って作業をした。

②職員

- ・野沢菜の収穫作業の機会があり、工賃に結び付くのでありがたい。
- ・野沢菜に土が付かないようにしている。
- ・作業手順が分かりやすくてよい。
- ・作業台や包丁など道具類がきちんと用意されていてありがたい。
- ・サンプルが用意されていてわかりやすかった。
- ・仮設トイレがあればありがたい。
- ・チームワークよく作業が出来た。

(8)留意していること・工夫していること

- ①包丁が汚れるため、ぬれタオルを用意して必要に応じて使用している。
- ②あいさつをきちんとする。
- ③ぱばな農園のスタッフさんや他の事業所の職員や利用者とのコミュニケーションを図る。
- ④利用者の様子を観察する。
- ⑤リラックスして作業が始められるよう配慮する。
- ⑥感謝の気持ちを大切にしている。
- ⑦信頼関係を構築すること。
- ⑧次回につながるような働きかけを行う。

(9)課題

- ①職員の高齢化
- ②利用者の高齢化
- ③農作業に参加できる利用者が少ない。



▲野沢菜漬の贈呈式。



▲ぱばな農園の野沢菜漬

4 農福連携エトセトラ



▲キウイフルーツの収穫作業。
たくさん採れたよ。



▲ごまの圃場で除草作業。



▲キウイフルーツの収穫作業。



▲栗のいがの片付け作業。



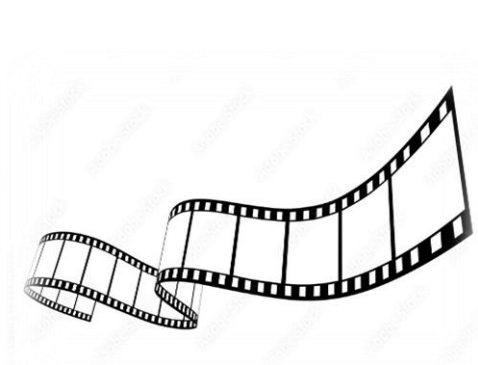
▲栗拾いといがの片付け作業。



▲柿の収穫作業。
ロープで一輪車を引っ張るぞ!



▲マルチ剥がしの名人です。



▲柿の収穫作業。



▲ポットに土を入れる作業。



▲ごまの収穫作業。
棒で叩いてごまを落とします。



▲剪定後の枝の片付け作業。

5 ぱぱな農園野沢菜収穫作業アンケート結果

別紙参照

6 おわりに

「農福連携」のよさは、障害者などが農業で活躍することを通じて、ふれあいややりがいを感じることに。農作業は夏は暑く冬は寒くて大変厳しいが、地域の住民や農家の方たちなどとふれあいがあったり、収穫作業などに携わる中で、利用者は喜びを感じている。

また、農福連携では工賃の確保や向上につながり、その作業などの一部を担うことで高齢化などが進む農業分野において、担い手として役立っている。

しかし、年々利用者の高齢化は進み、現在農福連携分野においてその中心的な役割を担っている利用者の活躍を数年後期待するのは厳しいのが現実である。

また、職員の高齢化も顕著であり、今後ますます高齢化が進む中で、後継者不足や人材の確保という課題の解決が急務である。